

仰天 道が奏でる音楽

「面白い場所があるよ」。
10年ほど前のこと。札幌市在住のタイ人、サムット・トゥンサリーカセートさん(37)は知人の男性に誘われ、標津町の田舎道を車で走った。
「しれ〜とこの〜 みさきに」
「知床旅情」のメロディーが聞こえてきた。
牧草地を抜ける長い長い直線。辺りに音響装置はない。ほぼ制限速度で走っていた。変わったことは何もしていない。



メロディーロードがクール!

タイは交通事故が多い。北海道発の「メロディーロード」があれば、楽しみながら交通安全の意識を高めることができ、効果的だ。



コンサルタント(タイ出身・札幌市厚別区)サムット・トゥンサリーカセートさん(37)



「速度を守ればメロディーがよく聞こえる」と話す篠田静男さん

もう一度、走ってみた。やっぱり聞こえてくる。メロディーの正体は、路面に刻んだ溝とタイヤとの接触音だ。こんなにユニークな技術を道内の企業が開発したと聞き、サムットさんはさらに驚いた。その企業は、同町にある従業員7人の土木業、篠田興業だ。篠田静男社長(61)が発案し、道立工業試験場(現・道

立総合研究機構工業試験場)と共同開発。その技術は特許登録され、「メロディーロード」で商標登録された。2014年末現在で全国に11カ所ある。篠田社長によると、溝で音楽をつくるポイントは車道に刻む溝の幅と間隔だ。間隔が広いほど低音、狭いほど高音になる。音量は溝の幅が広いと大きく、狭いと小さい。この理屈で溝を築き通りに刻んでゆく。

最初の「ひらめき」は40年近く前、舗装道路を土木作業用の重機で走ってしまった時のことだ。戦車のような金属の無限軌道で路面に凹凸を付けてしまった。「その上を普通の車で走って帰ったのですが、音がする

安全効果兼ね、海外でも関心



「ここからメロディーロード」。「ト音記号」の標識があったらいいですね。標津町、恵原弘太郎撮影

これは音楽にできるのではないか。当時から温めていたアイデアだった。バブル崩壊後、頼みだった公共事業がどんどん減った。そんな00年代のはじめ、当時社長だった兄(故人)から「何か仕事になるものはないか」と相談され

た。倒産の危機。やるしかなかった。中学の音楽教師をしている長女を車に乗せ、スリップ防止用に溝が刻まれた道路を走り、音を聞かせた。「これならメロディーにしても違和感がないよ」。その言葉に背中を押された。04年に実証実験用としてメロディーロード第1号「知床旅情」が完成。これが話題となり、今では日本各地でドライバーを楽しませている。海外からの問い合わせも多く、既に中国で4カ所の技術指導実績がある。

制限速度付近で走らないと、メロディーが本来の曲らしく聞こえない。速度超過を抑える安全効果もある。篠田社長は「こんな田舎の技術を認めて頂き、感激です。タイでもぜひやらせて下さい」。(神村正史)

全国のメロディーロード

設置場所

設置場所	曲名	長さ
1. 北海道標津町	知床旅情	500m
2. 福島県金山町	カントリーロード	278m
3. 長野県茅野市	スカポローフェア	240m
4. 愛知県豊田市	どんぐりころころ	300m
5. 滋賀県大津市・守山市	琵琶湖周航の歌	600m
6. 和歌山県紀美野町	見上げてごらん夜の星を	320m
7. 鳥取県境港市	ゲゲゲの鬼太郎	333m
8,9. 広島県世羅町	となりのトトロ(さんぽ)	658.3m
	森のくまさん	513.2m
10. 広島県安芸高田市	神楽(鬼の登場シーン)	270m
11. 沖縄県名護市	二見情話	344m